みどりっこ

熊町小学校だより
発行日2015，3,23
No. 12
発行責任者　末永幸弘

卒業おめでとう

本日、無事卒業式を終え、10名の卒業生を送り出すことが出来ました。ご支援ご協力いただき、誠に有り難うございました。

校長式辞より

玄関前のサンシュの木々にも黄色い花芽が膨らみ、ここ河東にも春のいぶきが感じられる今日この頃、ここに平成２６年度卒業証書並びに修了証書授与式を行えますこと、大変嬉しく思います。

今、卒業証書を手にした１０名の皆さん、卒業おめでとうございます。本日は、皆さんの卒業をお祝いするために、町長様はじめ沢山のご来賓の方々、皆さんのお父さん、お母さん方などこの会場におこし下さいました。皆さんと共に心から御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

今、担任の先生が心をこめて呼ぶ名前にしっかりと応え卒業証書を受け取り、将来の夢を堂々と述べる姿はりりしく大変立派でした。私は、一人ひとりに「よくがんばりました」「中学校へ行っても頑張ってください」と心の中でいいながら卒業証書をお渡ししました。

皆さんは、六年前、お家の方に小さな手を引かれてあの緑豊かな大熊町の小学校に入学しました。そして2年生が終わろうとするとき、あの辛い出来事を経験しました。

しかし、四月から町の皆さん、会津若松市の皆さんそして全国の方々のご支援で、この河東の校舎で学ぶことが出来、多くの思い出を作ることができました。

皆さんとは2年間のお付き合いでしたが、高学年としての皆さんの活躍は、とても頼もしく嬉しく思いました。学習に、運動に、そして児童会や委員会などいつも立派な模範を示してくれました。

皆さんとの思い出は5年生のときの宿泊活動です。苦労して火をお越し、美味しいカレーを食べました。学習発表会のマッスルミュージカルはビデオで時々見ています。６年生のときの修学旅行もいい思い出です。頑張れ大熊っ子大会、学習発表会、ヤングアメリカンズ、皆さんは大野小学校と協力してここ河東に新しい伝統を築いてくれました。

多くの経験を積み、頭も心も体も大きく成長し、思い出を胸に刻んで卒業していきます。卒業とは、業（わざ）が終わることを意味します。それは一歩踏み出すということです。

卒業は一つの終了ですが、また、未来に向けての新しい出発でもあります。その出発に際して、皆さんに期待することをお話しします。

今年度の１学期始業式で木という漢字に１画足すとどんな漢字ができるか考えてもらったのを覚えていますか。その中に未来の未という字がありました。上の枝がまだ若いという意味があります。未来という言葉は、まだ来ないという意味です。先日の３月１１日の集会では、皆さんは未来からの留学生だという話もしました。是非、夢と希望を持ち続け、素晴らしい未来を作るため一日一日努力を続けてほしいと思います。私も、先日皆さんから頂いた卒業証書を心の糧にしていきたいと思います。

さて、在校生の皆さん、今日でそれぞれの学年を修了し、４月からはそれぞれ一つ上の学年に進級します。この１年間、先生方の教えをよく聞いて、大熊町両校の新しい伝統を六年生と一緒に築いてくれました。これからも、卒業していく６年生の跡を受け継ぎ、更に素晴らしい学校になるよう友達と協力して頑張って下さい。それが卒業生への最高のはなむけにもなります。期待しています。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。震災避難生活を含めいろいろご苦労がおありだったと推察いたします。今日までのご努力のかいあってお子様が晴れて卒業されますこと心からお祝い申し上げます。この間、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことを深く感謝いたしますと共に、今後とも変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、公私ともにご多忙な中、卒業生のお祝いと励ましにおいでいただきました多くのご来賓の方々に、重ねて厚く御礼申し上げますと共に今後ともご指導、ご助言、そしてお力添えを頂けますようお願い申し上げます。

卒業生の夢

卒業生の皆さん、アイビリーブインフューチャー、皆さんの前途に限りなく明るい未来が開けることを祈念して式辞といたします。

植村篤史
アニメのクリエーターになって、日本だけでなく世界中の人を笑顔にしたい。

尾内梨穂
美容師になって、大熊の人を元気づけたい。

工藤日和
声優になって、見ている人みんなを笑顔にしたい。

工藤美咲
警察官になって、安心して暮らせる福島をつくりたい。

今野　海
パティシエになって、大熊の特産品だった梨を使ったスイーツを作りたい。

澤田　昴
バスケットボールの選手になって、世界で活躍したい。

鈴木梨花
パティシエになって、世界中の人に自分の作ったお菓子を食べてもらいたい。

東理孝太
日本一の寿司職人になって、福島の海のネタを使ったおいしい寿司を握って、人を笑顔にしたい。

箭内朱里
プロのサッカー選手になって、悲しんでいる人達を自分のプレーで元気づけたい。

渡邉奏海
小説家になって、人が元気になる物語を書きたい。

ご支援ありがとうございました